

# 規制の変化に ついていくために 適切なテクノロジーを採用する

PEGA  
ホワイトペーパー



## はじめに

金融機関は、マネーロンダリング防止（AML）、本人確認（KYC）、不正行為、決済、融資など、変化するさまざまなグローバルおよびローカルの規制への遵守が求められています。規制に変更がある場合、内容が確定する前に、今後の変更がどのようなものになるのかが少しずつ明らかになっていきます。そのため、規制コンプライアンスチームは、そのたびに社内のポリシーと手順をどのように変更すべきかを検討しなければならず、結果として多大な時間を費やすこととなります。また、規制が確定し発表されれば、急いでその要件を導入しなければなりません。同時に、今後も繰り返し行われる規制の変更に備える必要もあります。典型的な例は、2021年1月1日に施行された米国2020年AML（マネーロンダリング規制）法です。協議および制定後、規制の効力が長期にわたり段階的に生じていきます。

今後も変化が続くことは明らかです。このような状況にすばやく対応するには、近年発展してきたフィンテック機能やレグテック機能を取り入れ、ビジネスや規制のニーズに基づいたソリューションを採用することで、当面の課題に対処しつつ、将来の戦略基盤を構築することが重要です。

## 変化 — その重要な要素

金融機関にとって、変化は容易ではありません。規制に関わる変化はなおさらです。規制が追加されたり変更されたりすることにより、多くの関係者が影響を受けます。経営、コンプライアンス、法務、IT、オペレーションなど、フロントオフィスからバックオフィスまで多くのチームに影響を及ぼします。規制の変更がどのように、どのような範囲で影響するのかについては、各機関で考えなければなりません。プロセスから、手続き、人員、テクノロジーまで、影響が広範囲にわたり、統一を図ることが難しいこともあります。金融機関に対する規制変更の影響を理解する際には、多くの場合、外部の法律顧問やコンサルティング企業、またはその両者を客観的な第三者として参加させることが必要となります。

利害関係者が多数であることに加えて、規制の不確定性により金融機関における規制変更への対応はますます複雑化しています。多くの規制は具体的な行動を指示していないため、各金融機関が、規制要件を満たすための独自の解釈とリスクベースのアプローチを考えなければなりません。その典型的な例がAML規制です。

**規制の不確定性により、金融機関における  
規制変更への対応がますます複雑化しています。**



## 鍵となるフィンテックとレグテック

銀行がプロセスや手続き、人事の変化が必要であると認識すると、多くの場合、これをサポートするためにテクノロジーが活用されます。このような場合、テクノロジーはメリットをもたらすことも、問題を引き起こすこともあります。なぜでしょうか。従来のやり方では、テクノロジーが変化を押し進める代わりに、変化を妨げる場合もあるからです。例えば、以下のような場合です。

- ・ IT部門と、他の関係者（経営、コンプライアンス、法務、オペレーション）との業務が分離している。
- ・ 柔軟性のない、ブラックボックス的なテクノロジーを利用している。
- ・ サイロ化された、個別のソリューションに依存している。

このような場合、規制変更への対応にどのようなマイナスの影響があるでしょうか。以下がその例です。

### 次を原因とする不要な遅延

- ・ 経営側がIT部門に多数の要件を提示し、IT部門がその要件を解釈し実装しようと努めることで、やり取りが延々と続く。
- ・ ブラックボックス的なテクノロジーを更新するための外部ベンダーの利用。このようなリソースは必要なときにいつも利用可能とは限りません。
- ・ 更新が必要なシステムとアプリケーションの数の増加。サイロ化されたシステムを利用している場合、権限や指揮系統を超えて同じことを行う複数のシステムが存在します。各システムの更新が必要ですが、依存関係によって更新完了までの所要時間が劇的に長くなります。

### 次を原因とするコスト増

- ・ 外部ベンダー。いつでも利用できるわけではなく、専門知識も限られているため、割高になる可能性があります。
- ・ 長期にわたる実装期間。
- ・ サイロ化されたソリューションの使用。これにより互いに依存する複数のシステムを維持する必要が生じます。

これらのことから分かるのは、金融機関は、コンプライアンスプログラムへの対応に使用するテクノロジーを慎重に選ぶ必要があるということです。金融機関はテクノロジーの機能面のみではなく、そのテクノロジーがITと他の利害関係者をどのように分断するのか、あるいは結び付けてくれるのかを検討しなければなりません。企業にとって望ましいテクノロジーは、IT部門とうまくコラボレーションする文化を生み出してくれます。一方、ブラックボックス的なハードコードされたテクノロジーは、今後もITと他部門との間にギャップを生じさせ続けるでしょう。

同時に、金融機関は今後を見据え、採用するテクノロジーが将来への備えとなることを確認する必要があります。組織の中で成長し、組織の拡大と規制要求の増加にともない生じる課題に対応できるソリューションを選択しなければなりません。大局的な展望や将来の規制要件を無視すると、金融機関には、前進しているようで実際には後退するというリスクが生じます。コンプライアンス担当者にとって、これは、テクノロジーを十分に理解し受け入れるために、安全地帯から一歩踏み出さなければならないことを意味します。

## フィンテックとレグテックを理解し、そのメリットをコンプライアンスに生かすには

一般にコンプライアンス担当者の主な責任は、ポリシーとプログラムの規制の遵守を確保することです。規制要件が増加し、オンボーディングの所要時間が増加して顧客に不満が生じるなどビジネス全体に影響を及ぼす中で、コンプライアンス担当者への期待が高まっています。コンプライアンスのコストは非常に高いため、チームの需要が増加しても、コンプライアンス部門は対応するための人員を増やすことができません。代わりに、ロボティクス、機械学習、データアナリティクス、AI、さらにはビジネスプロセス管理ソリューションまでも、チームの仕事のスピードと品質を高めるための手段として検討しなければなりません。フィンテックとレグテックは、今やコンプライアンスプログラムの中心的な要素です。コンプライアンス担当者にはこれらについて十分な知識を持つことが求められています。

コンプライアンス担当者には、安全地帯から  
一歩踏み出す勇気が必要です。

---



## 適切なテクノロジーの選択

膨大な各種のテクノロジーとソリューションの中で、どれが適切かを理解し特定することは容易ではありません。現在の問題のみを考えて、大局的な見通しや将来の可能性を無視しがちですが、金融コンプライアンスの状況が常に流動的であることを考慮すると、これは大きなリスクです。将来の変化や課題に適応するのが難しいソリューションを使用すると、コンプライアンス担当者は新しいソリューションを探し続けなくてはならず、コストも増加します。

目の前にある問題を解決すると同時に、コンプライアンスプログラムに合わせて成長し変化するための拡張性、信頼性、設定可能性を持つテクノロジーを見つけることが重要です。コンプライアンス担当者がテクノロジーの専門家になるためには、次の点に注意する必要があります。

1. 現在の問題から視点を広げ、現在のテクノロジーの選択が組織の将来にどのように影響するかについて、大局的な見通しを持つ。
2. コンプライアンス問題の解決に向けたさまざまなアプローチについて幅広い見識を得るうえで、Pegaのサポートがどのように役立つかを理解する。
3. 適切なテクノロジーに投資する。新しい刺激的なテクノロジーは多数ありますが、基本的なことを正確に行うテクノロジーを採用すると、より確実に大きなメリットが得られます。
4. 他の組織のコンプライアンス担当者と話をして、特定のテクノロジーについての彼らの経験を聞く。





Pegaは、ビジネスの複雑性を解消する革新的なソフトウェアを提供しています。顧客生涯価値の最大化から、効率を高めるためのサービスの合理化まで、Pegaは世界の主要ブランドが問題をすばやく解決し、未来に向けた変革を成し遂げるお手伝いをしています。Pegaのお客様は、リアルタイムAIとインテリジェントオートメーションにより意思決定の質を高め、成果を生み出しています。1983年以来、Pegaは、急激な変化の中で勝ち残るための拡張性のあるアーキテクチャとローコードプラットフォームを構築してきました。Pegaのソリューションは多くの人々の時間を節約し、お客様の従業員と顧客がより重要なことに専念できるようお手伝いします。

詳細については、当社ウェブサイト [www.pega.com/ja](http://www.pega.com/ja) をご覧ください。